

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「いいことナルシスト」・・・「いいナル」はじめてみませんか？～

令和4年のスタートです。2学期終業式で話させてもらった「ココロの軸」は定まりましたか？  
県立伊丹高校にとっても「120周年」を迎える節目の年となります。「応援歌」覚えてくださいよー！  
いいスタートを切りたいものですね。さて、今回は・・・・・・・・・・・・・・・・「小さな親切」です。

1963年3月の東京大学の卒業式で、茅 誠司（かや せいじ）総長（当時）は卒業生に向けて次のような言葉を送りました。

「小さな親切」を、勇気をもってやっていただきたい。そしてそれが、やがては日本の社会の隅々までを埋めつくすであろう親切というなだれの芽としていただきたい。

大学で学んだ様々な知識や教養を、ただ頭の中に百科事典のように蓄えておくだけでは立派な社会人とはなれません。その教養を社会人としての生活の中に生かしていくには、やろうとすれば誰でもできる“小さな親切”を絶えず行っていくことが大切です。

**「小さな親切」はバラバラな知識を融合させる粘着剤の役目を果たすのです。」**

「小さな親切」運動は、茅 誠司と、この卒業告辞に感銘を受けた人々が提唱者となり、卒業式から3ヶ月後の6月13日にスタートしました。同時に「小さな親切」運動本部が発足。全国32道府県本部、137市町村支部とともに、次世代を担う青少年をはじめ広く国民の間に「小さな親切」の心を育てる様々な活動を行っておられます。

県高の中でも君たちの「小さな親切」が学校生活のさまざまな場面で見られます。本当にうれしいことです。今後、君たちの「小さな親切」の範囲が県高の中だけでなく、**県高の外へ外へと**広がっていくことを期待しています。

この「小さな親切」に関連して、放送作家、脚本家、ラジオパーソナリティ。株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ代表取締役社長の小山 薫堂（こやま くんどう）さんがこのように言っておられます。

僕は飛行機でトイレを使ったら、必ず洗面台の周りをペーパータオルできれいにふいてから出るようにしています。もちろん、次に使う人のためでもあるのですが・・・それと同時に・・・

**（誰も見ていないところで、こんなことしている）自分の姿に酔いしれている自分もいるわけです。**

いふなれば・・・「いいことナルシスト」でしょうか。

そんなふうに

「あ、自分って優しい人だな」

って思える瞬間を意識的に作る。そのうち本当にいい人になって神様が味方してくれるようになる気がします。

つまり・・・運がよくなる。

**僕は本気でそう思っています。**



『明日を変える近道』小山薫堂著／PHP

人の見ていないところで、「いいことをする」ことを、「善行」といったり「徳を積む」と言ったりするのは少し気恥ずかしいかもしれませんが、むしろ、「いいことナルシスト」と言ってしまう、自分の姿に酔いしれたり、「オレってすごい！」と、ニヤニヤしている方が自然かもしれませんね。

「自分の善行に酔いしれる」のは不純で、本当に人のことを考えない偽善的行為だなんて思うと・・・一歩も前に進めなくなってしまう。

どんな形にしろ、とにかく動いて、「いいことをする」方がいいに決まっています。どっちにしても誰もみていないのだから、せめていいことをした時くらいは、自分で自分のことをほめ、認めてやる必要があります。「自分って優しい人だな」「オレって、意外といいことするよな」「こんなに疲れてても、お年寄りに席譲ったワタシってスゴイかも」と、意識的に自分を認め、ほめまくりましょう！

「いいことナルシスト」・・・「いいナル」だと・・・